長野市立博物館

博物館だより

第47号
1999.7.2

Nagano City Museum

クジラの背骨が出てきた!!

七二会飯森の犀川左岸の崖から、約600万年前のクジラの化石が見つかり、5月18日から22日まで、発掘調査を行いました。

発掘した化石は背骨（脊椎骨）の部分で、数個の骨がそれぞれ前後の骨とつながった状態で見つかりました。このような状況から、この化石は全て同じ1頭のクジラのものだとわかりました。現場の状況から、かつてこの場所にクジラの骨が1頭分埋まっていたと考えられますが、崖の崩落や川の流れにより、頭の部分が流失してしまったと推測されます。

クジラの化石は、長野市も含めて県内各地からたくさん見つかっていますが、今回のように、同じ1頭の骨がまとまって見つかった例はこれまでに数例しかなく、長野市ではもちろん初めてです。

種類を見分けるのに重要な頭骨や下あごの骨がないため、残念ながらなんという種類のクジラなのかはわかりません。しかし、長野が大昔海の底だったことを教えてくれるとても貴重な資料です。

（畠山幸司）

『新収蔵資料展』開催される！
4月24日～6月27日

博物館では、市民の方から近年寄贈・寄託された資料及び購入資料の中から、約150点を展示した「新収蔵資料展」を行いました。昨年度博物館に寄贈・寄託された資料は31件。点数は約1000点を超えると思われます。

▲展示の様子

皆様から寄贈・寄託された資料は、クリーニング、台帳作り、殺虫・殺カビの燻蒸を経て歴史・民俗・考古・自然の分野に分けて収蔵され、さらに調査・研究を経て資料となります。こうした資料は収集して終わりというわけではありません。いわゆる『お蔵入り』ではなく、むしろその後の活用が重要となります。今回の『展示』も資料活用の一つの方法です。

この度の収蔵資料展では、「天秤棒で肥桶をかつぐ」「薬研を使って貝などをつぶす」「甲冑を着る」といった、資料に直接触れる「体験コーナー」を設けました。普段ガラス越しでしか見られない資料を直接触って、重さや手触り、使い方を理解してもらおうというものです。来館者の反応は好評で、会場でおこなったアンケートには以下のような感想が寄せられました。

「今までさわったことのない物ばかりを実際に身につけたり、使用することができ、いい体験ができました（市内）」、「昔の人になったみたいでとても面白い企画だった（埼玉県春日部市）」、「子供と一緒になって子供にかえったように遊びました（市内）」、「見るだけより理解を深めることができました。今後もこのような企画をお願いします（市外）」、「実際に触ってみていろいろわかった（愛知県名古屋市）」。

この他、「今回の展示で興味をもった資料は？」という質問には、今ではあまりみられなくなった「農具」・「服飾（軍服、和服）」と答える子供達が目につきました。また、今後希望する企画については、「川中島合戦」・「戦争」をテーマにした展示を希望する意見が多くありました。こうしたアンケート結果は、今後に活かしていきたいと思います。

当館では、さらに資料の有効活用を図る目的で、小中学校・育成会・地域の公民館との連携を図って館蔵資料の貸出し、触れる資料を使った体感博物館講座、出張博物館などの活動も考えています。広く生涯学習に役立てていただければと思います。

博物館では、限られた収蔵スペースをうまく使って、これからも市域の歴史を後世に伝える様々な資料を収集するとともに、有効な活用を通して市民の方に還元していきたいと考えています。皆様からの情報提供・資料提供をお待ちしております。お気軽に博物館までお電話ください。

（降幡浩樹）

▲肥桶は重いなあ

地域探訪

『千曲川』 その⑧ ～延徳の杞柳産業～

低湿地帯に立地する中野市延徳地区は、ひとたび千曲川が氾濫すると、堤防からあふれ出た水が何日もの間排水されずに溜まって、稲が根腐れを起こしてしまう水害地です。そのため、この地域の人々は稲のほか水害に強い作物を積極的に作ってきました。ここでは昭和の初めから30年代まで行われた柳栽培と杞柳細工についてその中心地であった延徳の新保集落を通してその頃の様子を見ていきたいと思います。

水害に強い作物として延徳に柳が入ってきたのは、明治の終わり頃のことです。土手を堅固にするために植えられる柳は根が強いため、長時間水の中にあっても腐らず、延徳地域には適しており、多くの農家で栽培されるようになりました。また、その栽培法は、農地に柳の株を植えたあと、春から秋にかけ株から伸びた枝を１尺ずつに切ってたんぼに植え、秋から春の間に３メートルほどに成長した柳を収穫します。柳栽培は稲に比べ収穫までにかかる手間が少ないということも、多くの農家に受け入れられた理由と言えるでしょう。

その後、大正３年柳加工の先進地であった兵庫県豊岡市から講師を招いて講習会を開き、昭和の始め頃には地域の産業として杞柳細工（行李と小細工）が発展していきました。行李作りがピークを迎える昭和10～11年頃には、延徳村のほとんどの農家が柳を栽培し、新保集落だけで150町歩の柳田がありました。これらの農家の中には行李を専門に作る加工業者もあらわれ、行李組合を組織し、製品の品質管理と価格統一、問屋との交渉などを行い、自分たちの権益を守りました。

▲柳の皮むき風景（昭和８年頃）〈西沢伝吉氏 蔵〉

杞柳細工には皮をむいた柳が使われ、出荷でも皮なしは皮付きの３倍の値で売れました。収穫の春になると延徳じゅうの農家で柳の皮むきが行われました。この時期は皮むきの手伝いのため学校が休みになるなど、皮むきは延徳の風物詩でした。加工業者はこの時に１年分の材料を揃えなければならないため、自家のほかよその農家からも皮付きのまま柳を買い付け、約5～6000貫（約18.75ｔ～22.5ｔ）の柳の皮むきをしたといいます。そのため、地元の子供たちや周辺地域の女性を多いときで１日50人も雇いました。

▲柳の宮　杉森神社

このように杞柳産業によって栄えていた延徳でしたが、昭和40年代以降、プラスチック製品の登場や、椎茸栽培への転換などにより、その面影はまったく失われました。現在、柳を栽培している家は１軒しかありません。その中で、新保集落の氏神の隣に祀られている「柳の宮」だけが当時の頃のことを伝えています。

柳の宮は、柳行李が盛んに作られた昭和５年頃、兵庫県豊岡市にあった柳の神様を分請してきたもので、杉森神社と呼ばれています。当時毎年夏に行われたお祭りは、加工業者の親方衆を中心に、賑やかに催されました。

柳は別名「白いダイヤ」と呼ばれていました。全国的に見ると杞柳細工の生産地というより柳の原料供給地としての性格が強かった延徳では、杞柳細工の先進地豊岡市での、需給のバランスによって大幅に変動する柳の相場に一喜一憂してきました。中には柳で財をなした人、逆に財産を失う人もいました。このような柳の持つ要素が、人々に神社を祀らせたのではないでしょうか。　（細井雄次郎）

INFORMATION
―お知らせ―

展示日程（7月～9月）

★第42回特別展「発掘された日本列島'99」　8月28日(土)～9月19日(日)　特別展示室
（全国各地の注目の発掘出土品を一堂に展示）

★「クジラ化石発掘調査速報展」　7月5日(月)～7月16日(金)　市役所玄関棟2階
7月18日(日)～8月22日(日)　自然史館

★企画展「茶臼山の化石」　11月7日(日)まで　自然史館（植物や貝の化石を展示）

★ミニコーナー「夏の自然」　8月8日(日)まで　自然史館（植物の写真パネル展示）
7月19日(月)～7月28日(水)　市役所玄関棟2階
（植物の写真パネル展示）

★常設展コーナー展示「慈悲のまなざし」
信濃町明専寺（みょうせんじ）の銅造阿弥陀如来立像
6月19日(土)～7月20日(火)（明治初年まで戸隠山にあったとされる仏像を展示）
善光寺信仰～小諸市大雄寺（だいゆうじ）の銅造阿弥陀三尊立像
8月21日(土)～9月15日(水)（13世紀後半の作といわれる善光寺仏を展示）

★移動展示「醤油製造と門前商家の営み」　9月2日(木)～9月7日(火)　大門町　武井工芸店2階
（三輪田町にあった会津屋醤油店の資料を展示）

お知らせ

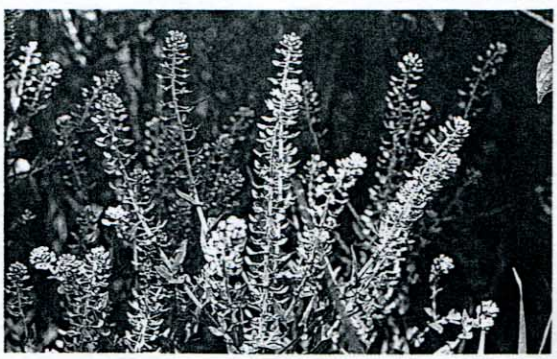
館内くん蒸のため、7月5日(月)から9日(金)まで休館させていただきます。

茶臼山自然史館通信1 ～初夏のたより

まわりのコナラ林は、春の花の季節が終わり、濃い緑一色になっています。その中でミズキやクリが白い花をつけています。林縁にはコバノガマズミ、ミヤマガマズミ、ガマズミの三兄弟も白い花で応戦しています。木立（こだ）ちの巣箱では、シジュウガラやスズメが巣作りを終え、ヒナを育てるのに一生懸命（いっしょうけんめい）です。駐車場の土手にはミヤコグサの黄色の花、イネ科のカモガヤやオオスズメノテッポウ、オニウシノケグサが開花から結実期に入っています。シロツメクサの白い穂の下の花は、咲き終わると下にさがり、次に咲く花に良い生活の場を与えようとつとめ、より多くの子孫を残す営みをしています。一方、庭の空き地には、外来植物がところせましと競い合い、日光の奪い合いをしています。開花期が4カ月以上も続くアカツメクサの中にほかの場所にはあまり見られないウロコナズナが花と実をつけています。

ウロコナズナは1953年に日本で最初に、この篠ノ井地区で見いだされたヨーロッパからのお客様です。現在でもあまり分布範囲を広げていません。たぶん見られるのは篠ノ井のあたりだけでしょう。また、比較的珍しいタルホコムギも麦秋を迎えています。一風変わった樽状（たるじょう）の穂を実らせています。コバンソウも小判型の穂が黄金色になってきています。キノコを取ったあとのオガクズの山の中では、カブトムシの幼虫が、まさにサナギになろうとがんばってくるくるまわっています。

（小林規甫）



▲ウロコナズナ

長野市立博物館　〒381 2212　長野市小島田1 4 1 4　☎026(284)9011
茶臼山自然史館　〒381 2225　長野市篠ノ井茶臼山公園内　☎026(292)7622